

弘法さんかわら版

発行編集部
大塚耕平事務所
☎052-757-1955
kouhei@oh-kouhei.org

七月になりました。夏本番ですね。くれぐれもご自愛ください。

一昨年「尾張名古屋・歴史街道を行く」杜寺城郭・幕末史」をお送りしていますが、今年「名古屋城と名古屋城下町」をお送りしています。今月は**武家地と建中寺**です。

★那古野と名古屋

那古野と記した地名は、清洲越しとともに**名古屋**と書かれるようになります。古くは**名護屋、浪越、名越**とも記し、名古屋城築城が決まった頃から名古屋と名護屋が併用され、次第に前者に定まっていきました。名古屋には**蓬左**の別名もあります。**蓬菜**は中国の伝説で東の海にある**不老不死の島**のことを意味し、古来、熱田も蓬菜に準えられました。その蓬菜の地の左に開けた町として蓬左と呼ばれるようになります。

名古屋の語源には諸説あります。「なご」は、気候や風土が和やかな地、霧(古語で「なご」)の多い地、山や丘陵の麓の集落、城砦をめぐる兵舎、波が高い海岸、等々様々な意



味があります。漢字が「名古屋」になった経緯については、調査中です(笑)。

★町名は後付けの武家地

藩重臣たちの屋敷は城の南側を護るように**三之丸**に配置されました。**成瀬、竹腰**の両御付家老の屋敷南に**山澄持監、渡辺半蔵**などの上級家臣の屋敷が本町通沿いに続き、この辺りは**大名小路**と呼ばれました。城の東側はやはり両御付家老の屋敷、下屋敷とともに、上級家臣の屋敷が立ち並びます。その南側には中級家臣の屋敷が集められました。武家地には町人地のような町名はありません。町の特徴などから自然発生的に、あるいは後世に呼ばれるようになったものなのです。

城の東側の外堀に面して御付家老の中屋敷がある**長堀町**、その東に**白壁町、主税町、撞木町**が順序良く並んでいました。家格の高い藩士ほど城に近い場所に屋敷を構えました。東大手門の東は**長堀町**です。御付家老**竹腰家**の屋敷が非常に長かったことから、そう呼ばれるようになりました。

白壁町は、御目付**豊田太郎右衛門**が屋敷に白壁の高堀囲いを造り、周辺の屋敷も白壁が多かったことから名前がつけられました。**主税町**は**勘定奉行野呂瀬主税**が住んだことに由来します。野呂瀬氏は

かつて武田信玄の家臣でしたが、時代を経て徳川義直の下で成瀬氏に属し、勘定奉行を務めました。主税町には、元禄年間(一六八八〜一七〇一年)頃の藩士の日常生活や風俗を記した「**鶉籠中記**」の著者、**御豊奉行朝日文左衛門重章**の屋敷がありました。

朝日文左衛門は、御豊奉行になる前は主税町ではなく、建中寺の東隣にある**百人町**に住み、そこから引越したようです。百人町は**足輕組頭**であった**渡辺半蔵家**が代々住んでいたことに由来します。

撞木町は、東西に通る道路の西端が行き止まりで「**丁**」字路になっていたことに由来します。つまり撞木の形です。撞木とは鉦を打つ道具で、柄の先端が「**丁**」の字になった棒のことです。本来は手偏の「撞」が正しい字でしたが、後世、役人の転記誤りから木偏の「撞」になったと伝わります。

上中級藩士の武家地の外側や城の南側には中下級武士の屋敷、碁盤割の東側には同心や足軽が住みました。中級武士の家は屋敷と言えり構えでしたが、下級武士の家は長屋づくりです。

★義直菩提寺の建中寺

主税町と百人町の間に創建されたのが**建中寺**です。一六五一年、二代藩主**光友**が父**義直**の菩提を弔うために、**成譽庵吞上人**を開山として建立しました。

寺域は約五万坪に及び、創建当時は周囲に石垣と堀を備えた城のような構えでした。本堂をはじめ多くの堂宇が立ち並び大寺院で、歴代藩主の靈廟が造営されました。江戸時代を通して特定の宗派に属

さない**別格本山(無本寺)**であり、御付家老成瀬家が創建した**宗心院**、渡辺家が創建した**誓安院**のほか、**甲龍院、全順院、正信院、光寿院、養寿院**の七つの塔頭寺院と多くの末寺を擁しました。

一七八五年、大曾根で大火が発生した際、燃える布団が舞ってきて本堂の屋根に落ちて延焼。大部分が焼失しましたが、二年後に再建されました。

境内南端に薬医門形式の**総門**、その北には三間一戸の二重門である**三門**が立ち、門をくぐると正面に**本堂**があります。本堂は入母屋造、本瓦葺きで、正面には軒唐破風のつく**向拝**が設けられています。本堂の後ろには**徳川家靈廟**があります。靈廟は、拜殿と本殿が連結された権現造であり、極彩色が施された華麗な社殿です。境内にはこのほか、四脚門形式の**御成門、鐘樓、開山堂、不動堂、経蔵**などがあります。

建中寺の南西に角を接する藩主の**御下屋敷**は、一六七九年に二代藩主**光友**が築きました。六万四千坪の広大な敷地です。七代藩主**宗春**は屋敷内に薬草を栽培する「**御薬園**」を設けました。八代將軍**吉宗**の享保の改革に反する藩政を行ったことで蟄居を命じられた**宗春**は、晩年を御下屋敷で過ごしました。

★碁盤割りの町人地

来月は、武家地や寺社地に守られるように造られた名古屋城下町の代名詞、**碁盤割りの町人地**についてです。乞ご期待。

